

LEADERSHIP CHALLENGE

大隈塾LCレポートvol.13

大隈塾リーダーシップ・チャレンジは11月27日、第13回のプログラムを開催しました。今回は、バリアバリューの視点から、多様な方々にとって快適なユニバーサルデザインのソリューションを提供しているミライロの代表取締役社長・垣内俊哉さんが「ユニバーサルデザインとビジネス」をテーマに講義を行いました。

◆タイムテーブル

09:00~09:50 垣内俊哉さん 講義
09:50~10:00 受講生ダイアログ
10:00~10:25 受講生とのQ&A
(チャットに質問項目を書き込んでいただきます)
10:25~10:30 クロージング
10:30~10:40 休憩
10:40~11:50 グループダイアログ
11:50~12:00 クロージング、次回案内

◆講義

講師：垣内俊哉さん

講義「ユニバーサルデザインとビジネス」

◆講師プロフィール

株式会社ミライロ代表取締役社長。日本ユニバーサルマナー協会代表理事。
1989年生まれ、岐阜県中津川市出身。立命館大学経営学部在学中の2010年、(株)ミライロを設立。障害を価値に変える「バリアバリュー」の視点から、企業や自治体、教育機関におけるユニバーサルデザインのコンサルティングを手がける。2014年には日本を変える100人として、日経ビジネス「THE100」に選出される。2015年より、日本財団パラリンピックサポートセンターの顧問に就任。

●バリアをバリューに

遺伝性の骨形成不全症を持って生まれ、障害を克服するために努力をしても足で歩くことが出来ず、17歳のとき3回にわたって自ら命を絶とうとした過去を持つ垣内さん。その後大学進学し、歩けなくてもできることを探した結果、障害があるからこそできる今の事業を見つけ、会社を起業されています。

「バリアフリーはマイナスをゼロにしていこうというアプローチに他ならない。それでは障害がなければいいのか、ない方がいいに決まっているが、障害があることが不幸ではない。障害があることが強み、プラスの価値に変わる瞬間もある。バリアはバリューに変えていけると確信している。」
「遺伝性の病気なので、いつか家庭を築き子どもを授かることがあれば、自身の子どものように足が不自由な体で生まれてくるだろう。一つだけ願うのは、子どもには死にたいとは思ってほしくない、歩けないからつらいから死にたいではなく、車いすに乗っていたから、障害があったからこんなことに気づけたんだ、こんなことに挑戦できたんだ、そんなことを思えるような未来をこれから実現できたらいいなと思っています。」

と事業の理念について語りました。

●企業が取り組むべきことは「環境」「意識」「情報」のバリアを解消しよう

1960年代以降、高度経済成長を背景としてバリアフリー化は大きく前進しており、例えば高槻駅のエレベーター設置により、半径1.5キロ圏内で年間2億円の経済効果が生まれるなど、バリアフリー化は地域活性・経済活動・ビジネスとして取り組むべき対象となっている。交通のバリアフリー化が進んだことで多様な人たちの外出が増えており、その方々と向き合うための環境の準備・心の準備を吸進めていく必要がある。

また、障害者差別解消法の合理的配慮の義務化が2024年の6月にも努力義務から法的義務に変わると見込まれている。障害者・健常者関係なく利用できる対応が整っていない民間企業は障害者に訴えられるリスクも生まれる。今から着実にできることを取り組んでいくことが望ましい。

日本のバリアフリー化は世界で一番進んでいる。ただし、私たちがまだ多くの違いを理解していないために、多様な方に対する企業の向き合い方が二極化(無関心か過剰か)しており、多様な方が“外出したい”と思えるような国にはなっていない。

「環境」

「バリアをなくす」のではなく「作らないこと」。コンセプト・企画設計の段階から配慮しておけば、お金をかけずしてバリアフリーを実現することができる。

「意識」

障害者や高齢者に対する接し方を「ユニバーサルマナー」として浸透させたい。ミライロで実施している「ユニバーサルマナー検定」という民間資格では、障害のある方が講師となり、障害者が実際にどういったことに困るのか、どういうサービス・製品が求められているのかをインプットする機会を提供し、そのうえで障害者の雇用を増やすことにもつなげている。

「情報」

リモートワーク上での情報保障、Webアクセシビリティの向上が必要。ミライロでは「デジタル障害者手帳みらいID」の普及に注力しており、265種類もある紙の身分証を電子化し、3,000社が参画する一つのプラットフォームを作ることで、障害者の情報管理を一元化・事前に各社へ共有できるようにしている。

「環境」「意識」「情報」のバリアを解消することで、頑張ってお金を稼ごう、また外へ出ようという障害者の就労意欲向上にもつながる。

●3つのバリアの解消は大きな社会貢献であると同時に大きなビジネスチャンス

一言に障害者といっても多様な障害があるが、多くの企業の取り組みは身体障害に偏っている。今後はまんべんなくバリアの解消を進めていくことが必要で、その延長戦上にあるのが障害者のニーズを統合した状態にある高齢者。

高齢者の貯蓄高は30代以下の4倍、40代の2倍以上。大きなマーケットがあるにも関わらず、その市場にアプローチしている企業は少ない。だからこそ、チャンスである。

障害者に関する取り組みは、世界へのPRはもちろんのこと、上場企業ならば機関投資家に対するPRにもつながる。アメリカのデータでは障害者を対象とした商品やサービスを展開している企業は、取り組んでいない企業と比べて、売上高プラス28%、利益率ではプラス30%高いというデータもある。

これからの社会を踏まえれば、これらを取り組むことは間違いなく、儲けの源泉であり、長期的に見れば収益に結びつくだろう。

従来、障害者に関する取り組みは社会貢献にとどまっていた。だから、続かなかつたし、広がらなかった。障害者や高齢者、小さなお子さんを持つ家庭などなんらかのバリアを感じている人は日本人の3割ほどにのぼる。これだけの人を求めていることだからこそ、続けていかなければいけないし、広げていかなければいけない。そしてそのためには、儲けていかなければいけないと考えている。

垣内さんは「日本はバリアフリーが進んでいる、世界に誇れる水準です。そんな日本だからこそ、環境インフラの部分だけでなく、ハートフルサービスの部分、その領域においても世界の手本となれるように、世界をリードできるように、世界に誇れるように。そんな社会を皆さんと一緒にこれから作っていったらと願っております」と講義を締めくくられました。

◆グループダイアログ

①垣内俊哉さんの講義を受けての感想のシェアとダイアログ(自社で「挑戦する文化、つながる文化」をどうやってつくるか)

②修了レポートに向けてのダイアログ(進捗状況、など)

を行いました。

◆受講生のレポートより

バリアをバリューに変えるうえで、まずは意識を変えることが大切だと思いました。意識を変える前にはまず知る・学ぶことが必要だと考えます。私の母親は障害者手帳をもっています。私が小さいころから体が不自由であったこともあり、私自身母親が求めていることが何かをよく把握できており、適切なサポートが出来ていると思います。それは、母親が何が出来て何が困難かを知っているからです。その経験から、まずユニバーサルマナーについて知る・学ぶことが大切だと思い、実践していきたいと思いました。まずユニバーサルマナーを理解したうえで、自社の提供する商品・サービスで何が出来るか？何があると受け入れられて、社会がよくなるとともにビジネスにもなるか？を考えたいと思いました。

=====
近年、様々な個性を持った友人知人がいる関係で、結果の平等を追求することは難しくとも、情報や場所等へアクセスする機会の平等を目指したい、また、その価値を生み出すことに貢献したいという思いが自分の中で強くなっております。また、業務上、不動産の時価評価等を行っていることもあり、社会的障害を取り除く合理的配慮に関する法規制や社会的責任の観点からユニバーサルデザインについて課題認識を持っておりました。自身が設計・デザインするわけではありませんが、環境性能について各種認証があり不動産の価値に影響するように、ユニバーサルデザインについても今後価値に影響してくるのではと考えています。現在いくつもの再開発・街並みづくりを進める中で、最初からバリアをつくらないデザインをしておけば追加コストなどもかからないと思いつつ、どういった形がユニバーサルデザインなのか、誰も取りこぼさないための実現の仕方となると、バリアは個人によって異なるため、それぞれに細やかに対応することが非常に難しいと感じていました。また、企業が進めていくためにはサステナブルである必要があり、そのためには経済合理性をどう担保していくのかといった部分も悩ましく感じていました。もっと自身の学びが必要だと痛感しており講義を受けるまでは大学院の講座に目星をつけていたのですが、本日の垣内さんのお話を伺い、まずは検定を受けようと思いました。ユニバーサルデザインを模索するプロセスにおいても、10人といったレベルではなく1000人規模以上の多くの声を聴くことで、ユニバーサルに近づくといったお答えであったり、バリアバリューという考え方(そこに大きなビジネスチャンスがあり、収益の源泉となりうる)を教えていただき、たくさんの悩みに「解」をいただきました。

=====
バリアフリー社会の発展に向けて様々な法整備が長年にわたって行われていたことを知り、インフラ設備が世界の中でもトップクラスであることに納得しました。個人個人の意識については一方で大きな課題があるなかで、バリアをバリューへという、経済性の観点から社会を変えていこうという考えは新鮮でした。日本人の文化・風土に根付いているものを変えるのは容易ではないなかで、「ビジネスに繋げる」ということが結果的にマインドチェンジに繋がる近道かもしれないと思いました。

=====
これまで高齢者向けや妊婦さん子供向けを対象にしたユニバーサルデザインという観点は仕事上取り入れる機会がありましたが、あくまでも小売店舗などの空間づくりにおけるものでした。自分にとって垣内さんの講義で全く新しい価値観となりました「バリアバリュー」という考え方は、企業また事業をする側として知ることが遅すぎたと感じるくらいです。経済性と社会性を両立するという言ってしまうと当たり前なようですが、本当に考えて取り組むにはもっとその事について多種多様な方々から学ぶ必要があると気づかされました。

=====

言葉にすることが難しいのですが、垣内さんのお話を伺う前は「障害者にして起業家」というように、垣内さんのアイデンティティーを勝手に障害者中心で捉えてしまっている自分がいたことに気づかされました。一人の人間の中に多面的なアイデンティティーがあることを踏まえると、障害者の方の中にも多様なアイデンティティーがあり、時と場合に応じてどのアイデンティティーが前面に出てくるのかが異なるはずです。現に今回の講義の間は、「障害者」というよりも「起業家」として垣内さんのことを意識していました。こういう意識の変化で何が変わるのか、そして逆にこういう意識の変化が何か見落としてしまっているのではないかと感じましたが、これが今回率直に気づいた点です。

=====

「高齢者は障害者のニーズが統合されている」という言葉は、目から鱗だった。どうしても、障害者だからということで、違う目で見えてしまいがちな自分がいるが(高齢者をそう見てはいないように)特別視をする必要はないと、認識を新たにすることができた。例えば、息子のベビーカーを押していると、道路の段差に気づくように、相手の身に立って考える(思いやる)ということが重要なのだと思う。

=====

今回のコンテンツは、企業の社会的責任として障害者にどう寄り添うかという内容だと思っており、自社にはまだそんな余裕はないと正直あまり興味を持っていませんでした。しかし実際に講義を受け、持続させるためには経済性が必要であると、あくまでビジネスとしてとらえていることに目から鱗でした。考えてみれば、商売というのはいかに消費者のニーズに応えるかで、正しくニーズに応えている商売は消費者を幸せにしてくれます。障害(バリア)を裏返すとニーズであると思います。世の中にある様々なバリアを考えることは、ビジネスチャンスであると感じました。

=====

「障がい者」に対する対応が『義務』的な考え方が正直強い企業の考えを一変させられた講義でした。垣内さんから『収益』という言葉が何度も発せられ、かつ、「収益が上げられなければ続かない」という本質をついたお話を伺い、衝撃を受けました。こんな考えの障がいをもった方がいるんだと。申し訳ありませんが、私がお会いした障がいのある方は、どちらかという悲観的で、世間に後ろ向きの様な発言が多いような方が多いように感じていましたが、さらけ出した垣内さんの様な方がいらっしやると、もっと色々な取組みやお手伝いができるのではないかと感じる一方で、私の中には無意識の「バリア(パイアス)」がかかっているものだとも感じています。また、都市部の公共交通機関のバリアフリー化が世界で最も進んでいると言われたことに対して、非常に驚きました。垣内さんもおっしゃっていましたが、障がい者だけではなく、高齢者、乳幼児のいる家庭なども必要としていとおっしゃっていましたが、共感する部分が多くありました。ただ、健常者がベビーカーを押したときに、健常者が通るルートを、ベビーカーで通ることが出来ないことが多くあり、この「不」を感じていたため、「世界で最も…」と言われましたが、ずっと自分に入ってきませんでした。ただ、その直後に「無関心か過剰か」というお話を伺い、この考えは過剰なのか？とも感じました。こんなことを感じる事のないユニバーサルデザインされた街が創られていくといいと思いました。

=====

目に見える障害と目に見えない障害がある。見えないとただ能力がないと勘違いされやすいし、こちらは何をフォローすればいいのか分からない。だからこそ、色んなことを受け入れていく気構えと困っている周りの人への気付くアンテナをたてておかなければいけないし、“困っている”と言いやすい環境作りは、リーダーになる我々が自然にやるべきことだと感じた

=====

大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポートVol13

2021年12月6日発行(通算83号)

大隈塾事務局(一般社団法人ストーンズープ)

古屋茉紀 yokukikumakiron@gmail.com

〒026-0002 岩手県釜石市大平町3-9-1
TEL:050-3558-7527
MAIL:ookuma_school@stonesoup.tokyo